平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人香川大学

１　全体評価

香川大学は、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。」ことを理念としている。第３期中期目標期間においては、地域社会の課題解決に資する教育・研究等の実績を基に、地域活性化の中核的拠点としての機能強化を目指すとともに、特定の分野においては、世界ないし全国的な教育研究を目指すことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、自治体との連携による寄附金収入の確保を進めるとともに、国際研究拠点を形成し希少糖研究を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　課題解決力を高める学習機会を増加させるため、全学部の１年生が必修の大学入門ゼミにおいてProblem/project based learning（PBL）を取り入れた授業を行うことを必須としている。併せて、実践型カリキュラムとして、全学共通科目に地域理解に関する科目群を新設し、講義型科目10科目・実践型科目７科目を配置するとともに、自治体と連携して行う「瀬戸内地域活性化プロジェクト」に新たに高次の授業を開設することにより、学部４年間を通じて履修できるカリキュラムを整えている。（ユニット「チャレンジ精神や課題解決力を養う教育」に関する取組）

○　異分野融合研究を第２期中期目標期間と比較して30％以上増加させることを目指して、異分野融合研究の活性化を促す要因を把握すべく、異分野融合と想定される、複数の部局の教員が関与する研究活動について共引用関係に基づいて５年間のデータを分析しており、大学の異分野融合研究の中心が医工連携研究及び医農連携研究であることを明らかにしている。（ユニット「研究の国際的な展開」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ. 業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載９事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 年度計画を著しく上回る目標の達成

年度計画【56-1】に関して、年俸制適用教員が13％（80名）となっており、年度計画に掲げる目標である「62名の教員を年俸制適用者とし、教員の10%以上の年俸制適用者を確保する」を著しく上回っていると認められる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善　④予算編成の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載６事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 自治体との連携による寄附金収入の確保

香川県木田郡三木町との包括的連携に関する協定を締結し、三木町へのふるさと納税の返礼品として、大学の研究成果が生かされた「希少糖含有シロップ」を選択した寄附者からの寄附金総額の半分が三木町から香川大学に寄附される仕組みを構築している。平成28年度は162万8,000円が寄附され、これを財源に希少糖に関する教材製作や地域住民を対象とした講演会の実施等、地方創生や地域振興等の分野において連携・協力を図ることとしている。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載２事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 国際研究拠点の形成による希少糖研究の推進

国際希少糖研究教育機構を設置し、各学部やセンターの教員等60名を併任させるとともに、国際公募による助教の採用、オックスフォード大学（英国）からの客員教授の招へい、関連企業との共同研究契約に基づく研究員の受入れを通じて体制を強化している。当該機構が中心になり希少糖研究を推進した結果、希少糖の効率的生産を可能とする新規酵素に関する特許を取得するほか、D-アロースの抗がん作用に関する研究成果について国際出願・公開されるといった成果が得られている。

○ 医師等の派遣による熊本地震対応への支援

熊本地震の発生直後に医師・看護師等から構成される災害派遣医療チーム（DMAT）を熊本県山鹿市等へ派遣しているほか、大学の防災士養成プログラムを修了し防災士資格を取得した学生等から成る香川大学防災サポートチーム及び学生ボランティアを熊本県益城町等に派遣するなど、災害復旧・復興支援に取り組んでいる。また、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構を中心に熊本大学と連携して、熊本市向山校区を対象にワークショップ等を通じた地区防災計画支援を行っている。

○ 知的財産マネジメントにかかる業務委託による産学官連携活動の強化

産学官連携による共同研究を推進するため、大学の知的財産に係る出願、権利化、維持管理、共同出願先や弁理士事務所との対応等、マネジメント業務全般を四国TLOに委託している。発明相談や技術相談の段階から、大学側のコーディネーターと四国TLOが協働して対応することで、大学の技術シーズと企業等ニーズのマッチング活動の進捗把握や成果の技術移転がスムーズに行える体制が整備され、平成27年度に比べて技術相談が12件、技術移転が１件増加するなどの効果が現れている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ スキルスラボを活用した医師・看護師の資質向上に向けた取組の実施

スキルスラボにおけるシミュレーション教育の充実を図り、医師・看護師の資質向上を推進するため、看護師の講習に必要な機器の整備、ラボの利用開始時間の繰り上げ、広報誌による周知等を行ったことにより、月当たりの利用者数が1,563名（対前年度比370名増）となっている。

（診療面）

○ がん患者に対する治療と仕事の両立支援の推進

がん患者の就労に関する総合支援事業として、ハローワークの出張相談窓口を病院内に新たに開設し、ハローワークと連携して長期療養者等の就職支援を行うほか、香川産業保健総合支援センターの実施する個別訪問支援事業を活用して、がん患者の治療と社会保険労務士による職業生活の両立に係る専門的相談に対応する体制を整備するなど、がん患者に対する治療と仕事の両立支援に取り組んでいる。